

相談支援総合調整会議主催 ヤングケアラー支援啓発事業

みんなで知る 支援につながるヤングケアラー

ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている

家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている

障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている

目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている

日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている

家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている

アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している

がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている

障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている

障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟/illustration:izumi Shiga

市内図書館でヤングケアラーに関する書籍コーナーを設置

9月1日(木)～10月30日(日)

→本多図書館 ☎(042)324-2022
→市相談支援総合調整会議事務局 (地域共生推進課内) (内565)

お気軽に相談してください

ご自身がご家族のケアで悩みを抱えていたり、周囲に心配な方や大変そうな方がいたりしませんか。社会全体でヤングケアラーを正しく理解し、認識を高めることで、存在に気づき、相談につながり、その気持ちに寄り添いながら、必要な支援の輪を広げていくことができます。

主な相談窓口一覧

相談内容	相談窓口(★=祝日除く)
自分がヤングケアラーかもしれないと思ったとき	こそでん(子ども専用相談電話)(18歳未満) 火～土曜日8:30～17:00★ ☎(0800)800-9033(通話料無料)(子ども家庭支援センター) ☎(042)572-3725※通話料がかかります
	チャイルドライン(18歳まで専用) ☎(0120)99-7777 16:00～21:00(年末年始除く) ※チャット相談あり https://childline.or.jp/
	弁護士子どもの悩みごと相談(東京三弁護士会多摩支部) ☎(042)548-0120 毎週水曜日14:00～19:00★
	児童相談所相談専用ダイヤル(厚生労働省) ☎(0120)189-783(いちばやく・おなやみを) 24時間受付(年中無休)
	24時間子供SOSダイヤル(文部科学省) ☎(0120)0-78310(なやみいおう) 24時間受付(年中無休)
教育相談室 ☎(042)573-4376 火～土曜日10:00～17:00(木曜日のみ19:00まで)★	
ケアをしている祖父母などが高齢のとき	高齢福祉課 ☎(042)321-1301
ケアをしている親やきょうだいに障害がある、親や祖父母などが難病や依存症(アルコール・薬物など)のとき	障害福祉課(内522)
幼いきょうだいの世話をしているとき(親が養育困難など)	子ども家庭支援センターぶんちっち(子育て相談室) ☎(042)572-8138 火～土曜日8:30～17:00(電話対応時間)★
生活にお困りのとき	生活福祉課(内586)

みんなが知ることが支援につながります

国の実態調査では小学6年生で約15人に1人(6.5%)、中学2年生で約17人に1人(5.7%)、全日制高校2年生で約24人に1人(4.1%)、大学3年生で約16人に1人(6.2%)がヤングケアラーとされています。ヤングケアラーは、家庭内のデリケートな問題であり、本人や家族に自覚がないため表面化しにくいとも言われています。家族の病気や障害を知られたくないと相談をあきらめたり、お手伝いの範囲を超えていることに気づかない人もいます。周りの人や子どもをはじめ、社会全体でヤングケアラーへの理解が広がるのが大切です。

ヤングケアラー支援講演会・講座を開催

ヤングケアラーへの理解を深め、適切な支援につなげるために、私たちは何ができるのか一緒に考えてみませんか。

共通事項

- 場①リオンホール②オンライン参加
- ¥無料※②の通信料は自己負担
- 申電子申請以外は、電話または chiikikyouseisuishin@city.kokubunji.tokyo.jp で地域共生推進課(内565)へ
- 注講師の講演は後日録画も公開予定。新型コロナウイルス感染症の状況によっては、オンライン開催のみに切り替わる場合あり。講座の手話通訳をご希望の方は申し込み時にお伝えください(①のみ)

ヤングケアラー支援講演会

ヤングケアラーのこと知っていますか

10月4日(火)14:00～16:00(開場=13:30)

関心のある方はどなたでも

プログラム

講演

講 森山千賀子さん(白梅学園大学子ども学部家族・地域支援学科教授)

プロフィール 専門は介護福祉学、地域ケア。大学卒業後15年間にわたり、介護施設および在宅介護福祉分野において介護職として従事。2001年より白梅学園短期大学保育科准教授を経て現職へ。在宅の現場でケアラー、ヤングケアラーに出会い、その存在のあり方について考えるようになる。「(一社)日本ケアラー連盟」会員、「NPO法人介護者サポートネットワークセンター・アラジン」賛助会員。著書に「自立(律)性を高めるための援助の視点」共著(2007年)萌文社・「子ども・家庭・地域が変わる 家庭訪問型子育て支援ハンドブック」編著(2013年)明石書店等がある

質疑応答

講 たるべえさん(元ヤングケアラー、現在若者ケアラー)

プロフィール 1997年生まれ。交通事故により片麻痺と高次脳機能障害が残った母親のケアを幼少期から続けている。「ヤングケアラー わたしの語り 子どもや若者が経験した家族のケア・介護(2020年)生活書院」第2章、「ヤングケアラーってなんだろう(2021年)筑摩書房」第3章を執筆

定①150人※先着順 注定員に達しない場合は当日枠あり(定員あり)

申9月2日(金)～22日(木)に市HP [検索](#)1028469から電子申請で



森山千賀子さん



たるべえさん

第1回ヤングケアラー支援講座

ヤングケアラーを支えるために、子どもたちに関わる私たちができること

10月18日(火)14:00～16:00(開場=13:30)

関 子どもに関わる福祉・教育などの関係機関や専門職員、子どもの居場所・子ども食堂等の民間団体の方など

内①講演②元ヤングケアラーの方の講演③グループワーク④まとめ・質疑応答

講①上原美子さん(埼玉県立大学保健医療福祉学部教授)

プロフィール 専門は学校精神保健・養護教諭養成教育。研究テーマは、学校保健と学校福祉の協働・専門職連携、教員のメンタルヘルス。小学校、中学校、高等学校で25年間養護教諭として勤務。埼玉県教育委員会指導主事を務める。現在、埼玉県立大学保健医療福祉学部にて、養護教諭の養成を行う。「(一社)日本ケアラー連盟ヤングケアラープロジェクト」に参画 定①70人※先着順

申9月2日(金)～10月4日(火)に市HP [検索](#)1028493から電子申請で



上原美子さん

第2回ヤングケアラー支援講座

ヤングケアラーを支えるために、ご家族に関わる私たちができること

10月26日(水)14:00～16:00(開場=13:30)

関 ヤングケアラーの保護者やケアを必要とする方に関わることが想定される福祉・教育等の関係機関や専門職員、民間団体の方など

内①講演②元ヤングケアラーの方の講演③グループワーク④まとめ・質疑応答

講①松本理沙さん(北陸学院大学人間総合学部子ども教育学科講師)

プロフィール 専門は社会福祉学。2009年から主に障害児者のきょうだい支援に関する研究・実践に携わってきた。北陸3県を拠点とする「北陸きょうだい会」や、ウェブサイト「Sibkotoシブコト」などの設立・運営に関わってきた。「ヤングケアラープロジェクトいしかわ」「(一社)日本ケアラー連盟ヤングケアラープロジェクト」などにも参画

定①70人※先着順

申9月2日(金)～10月12日(水)に市HP [検索](#)1028494から電子申請で



松本理沙さん

ヤングケアラー

市役所への申し込み・問い合わせの時間は、特記がない場合は月～金曜日(祝日を除く)8時30分～17時(12時～13時を除く)の受付となります。